

芦屋市議会議員

たかおか知子

市政報告

子育て目線で声を届ける！

MOKOMOKO
通信
no. 12
2026



OFFICIAL SITE



多数に流されず埋もれる声を大切にする議会に！

「誰一人取り残さない」という姿勢は、市長にとって大切な役割です。一方で、議員にはまた少し違う役割があるのではないのでしょうか。議員に求められるのは、どの声を議会に届けるかを、自らの責任で見極めることだと私は考えています。組織に頼らず、それぞれの議員が自らの責任で市民の声を代弁する。そうして初めて、多数の中に埋もれてしまう声も、議会の中に残すことができます。

だからこそ私は、届きにくい小さな声にこそ目を向け、手を差し伸べる議員でありたいです。



令和 8 年度予算

予算は、ちゃんと使われてこそ意味がある！

一般会計 **493億8,000万円** / 前年度比 **2億2,200万円 増** **↑0.5%増**

市民1人あたりに換算すると、約52万9千円の予算。これが「市のお金の規模感」です。行政は、市民の皆さんに利用していただくことを見込んで予算を組んでいます。しかし、その予算が使われず、決算で残ったものが「不用額」です。

予算は、限られた財源の中で優先順位をつけながら配分されています。一方で、要望があっても見送られたり、削られたりした事業もあります。

だからこそ、本当に必要な支援が届き、活用されているかを見届けることが大切です。まずは制度や支援を知っていただき、課題があればぜひ声を届けてください。

令和8年度 芦屋市の主な注目施策

- 物価高騰対策：6月検針分から上下水道の基本料金が4ヶ月無料
- 公益施設の新設：JR芦屋駅南地区再開発ビル3階に交流の拠点
- こども誰でも通園制度：満3歳未満、月10時間まで1時間300円
- 妊婦のRSウイルスワクチン定期接種：自己負担なしで実施
- 小学校の老朽化対策：体育館空調更新、トイレ・外壁屋上改修など
- 不登校支援：サポートルーム刷新、のびのび学級の開室時間延長
- 中学校部活動：安全対策、調整窓口、経済的困窮世帯への補助
- 高齢者バス運賃助成：3割へ減額、阪急バス全線への助成追加

今後の予算配分を考える上で質疑を行ったこと

類似団体と比較した予算配分

最新の類似団体比較カードによると、芦屋市は財政基盤に一定の強みがある。また、人口1人当たりの歳出で見ると、民生費と教育費は類似団体を下回り、土木費や公債費は高い傾向にある。財政的な余力がないというより、何を優先して予算を使うのかが問われているのではないかと？

現場に即していない機材の選定

学校で使うタブレット端末では、バッテリー消費の早さや充電のしにくさ、導入から間もない時期の不具合の声。国の基準どおりかどうかだけでなく、キーボードの必要性や故障率、保守のしやすさも含め、子どもたちにとって使いやすい端末かを重視して、購入を検討する余地があったのでは？

本来かからないはずの経費

一部のマナー違反によりパイプラインの詰まりが繰り返され、洗浄や配送車などの経費と人的負担が発生している。これは単なるごみ収集の問題ではなく、ルールが守られることを前提にした仕組みそのものが崩れ、地域の生活実態を把握して別の視点からの対策が必要なのではないかと？

減収額が大きく損している制度

ふるさと納税は、地場産品に乏しい本市にとって、努力だけでは限界である制度。横浜市のように300億円を超える税収流出があっても、地方交付税で7～8割程度の補填があるが、不交付団体の本市にはその補填がない。10億円以上の減収が続く以上、国に補填を求めるべきでは？

一般財源で事業を支える予算

地域医療を支える公立病院は、救急や不採算医療など、独立採算制の経営努力だけでは測れない重要な役割を担っている。市立芦屋病院について、CT・MRI・電子カルテなどの高額医療機器の更新が財源不足を理由に先送りされることのないよう、市がどう関わり支えていくのか？

予測できない固定された予算

毎年1,000万円を固定的に計上しているものの、災害はいつ発生するか予測しにくい。結果として執行されず不用額となることが続いている。予備費1億円や補正予算など、緊急時に対応する手段は他にもある。そうであれば、固定的に持つより、他の必要な予算に回したほうが実用的ではないかと？

条例提案

子どもの権利を守る条例づくりに向けて



少子化・高齢化が進む中、子どもの成長を地域全体で見守ることは、ますます大切になっています。すべての子どもが心身ともに健やかに育つ社会を実現するためには、子どもの人権を守る理念を、市として明確に示す条例が必要です。これは、規則を厳しくするためのものではありません。子どもを大切に

する姿勢を市全体で共有し、子どもの権利を守る意識を育てていくためのものです。私はこれまで一般質問でもその必要性を訴え、他市の取り組みにも関心を向け、勉強会や視察にも参加してきました。その中で強く感じたのは、条例をつくること自体が目的ではなく、条例づくりを通じて、みんなで考え、学び、**子どもに優しいまちの土壌**をつくっていくことが大切だということです。

議会全体でもその必要性への認識が広がり、議員提案による条例づくりを考え始めたことは、芦屋市議会にとって画期的な取り組みです。議員同士が討議を重ね、協力しながら施策を実現していくことは、私が思い描く本来あるべき議会の姿でもあります。もちろん、つくって終わりでは意味がありません。

条例をどう生かすのか、市民がどう関わるのか、そして子ども自身の声をどう受け止めていくのか。その仕組みを丁寧に整えていく必要があります。

子どもたちを含む市民の皆さんとともに考え、つくっていくことが、子どもに優しいまち、そして活力ある芦屋へとつながっていくと感じています。



意見書の提出

高額療養費制度の負担上限引き上げに私は反対です！

私が初めて自ら発案し、提出に向けて動いた意見書です。各議員との合意形成を図るため文案を調整し、「高額療養費制度の自己負担限度額の引上げ見直しを求める意見書」の提出に挑みましたが、残念ながら結果は【否決】でした。医療費の負担増は、受診控えや治療の中断を招き、老若男女すべての世代に関わる問題です。

委員会では、3名の提出議員とともに、意見書提出の必要性を説明しました。議長を除く8名の議員が賛成の意思を示しました。

しかし、あしや政風会、公明党、日本維新の会の議員10名からの賛同は得られず、**可決にはわずかに届きませんでした。**

また、4月23日には、高額療養費制度の自己負担限度額について、8月からの最初の引き上げを「凍結すべきだ」として、30万4,000人以上の署名が厚生労働省に提出されました。患者団体からも切実な声上がる中で、患者団体からも切実な声上がる中で、命綱ともいえる制度を守るため、引き続き必要な声を届けていきます。

■令和8年第1回定例会「高額療養費制度の自己負担限度額の引上げの見直しを求める意見書」議員別賛否表

あしや政風会					公明党			日本維新の会		至誠会			日本共産党		会派に属さない議員			
岩岡りょうすけ	福井利道	川上あさえ	原なつ子	福井美奈子	西村まさと	田原俊彦	帰山和也	浅海洋一郎	橋本隆	中島健一	西崎薫	寺前尊文	川島あゆみ	ひろせ久美子	山口みさえ	中村亮介	大原裕貴	たかおか知子
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	-	○	○	○	○	○	○	○	○

事業計画

削減案がもたらしたシワ寄せ負担！

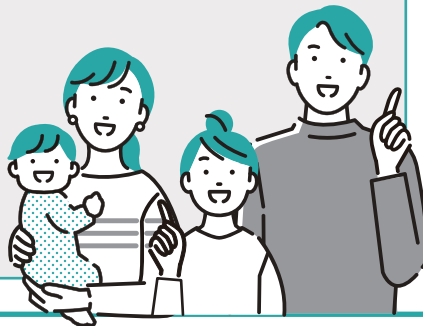
JR芦屋駅南地区の再開発は、事業規模が縮小したにもかかわらず、市税の負担はむしろ増えています。当初は、国の補助について「申請額の9割が受けられる」という前提で計画が立てられていました。ところが実際には、事業の遅れによって国の補助金の確保競争が起き、補助率が4割程度まで落ち込む可能性が出てきました。

その結果、市民負担はいっそう重くなっています。不足分を補うため、市の借金である地方債は10.5億円にのぼり、令和8年度予算では約19.7億円が計上されています。こうした事態を招いた背景には、突如として当初予算に反対し、修正案を認めさせた議会の勢力の影響があったといわざるを得ません。行政もまた、議決に怯えるあまり、結果として将来負担を大きくする判断に追い込まれたのではないのでしょうか。大型事業は、遅れれば遅れるほど損失が大きくなります。今後は、その重みをしっかり直視した上で、責任ある判断が求められます。

■たかおか知子 Official ホームページ

活動ブログを見やすくリニューアルしました！

ホームページでは、「モコモコ通信」では書けなかった、市の取り組みやその他の議案など、チラシだけでは分かりにくい点や、伝えきれない内容については、活動ブログで詳しくお伝えしています。議員の視点から見た行政の実態や、「子育て・教育」「行財政・首長」「防災・防犯」「地域・交流」「女性の政治」のテーマに沿って、日頃の気づきを発信しています。また、新人議員の時から続けてきた「議員の本音」シリーズも、No.100をひとつの節目としながら、2期目に入った今も、新たな目線で、議会の中での出来事を中心に、率直な思いを発信し続けています。



あなたのご意見を
たかおか知子に
聞かせてください。
お問い合わせから…



たかおか知子は
SNSで随時
情報発信中です！
ホームページから…



●ホームページも随時更新中です！

→たかおか知子

検索

芦屋市議会議員 孝岡知子 (たかおか ともこ)
事務所: 芦屋市清水町 TEL: 070-4332-6414 E-mail: mail@takaoka-tomoko.me
発行: 会派に属さない議員 発行年月日: 2026年5月